

令和5年度 佃島小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立佃島小学校

所在地：中央区佃2-3-1

校長名：岡部 君夫

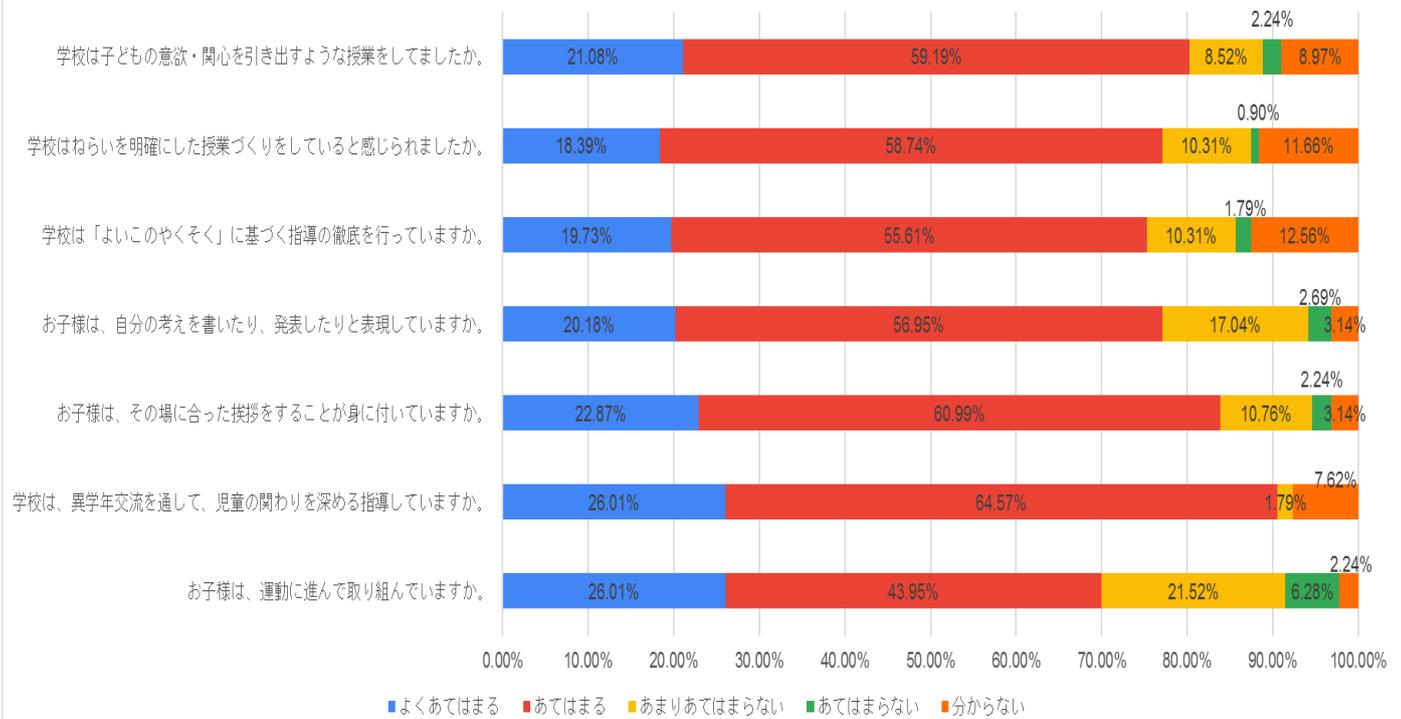
児童数 771人

学級数 25学級

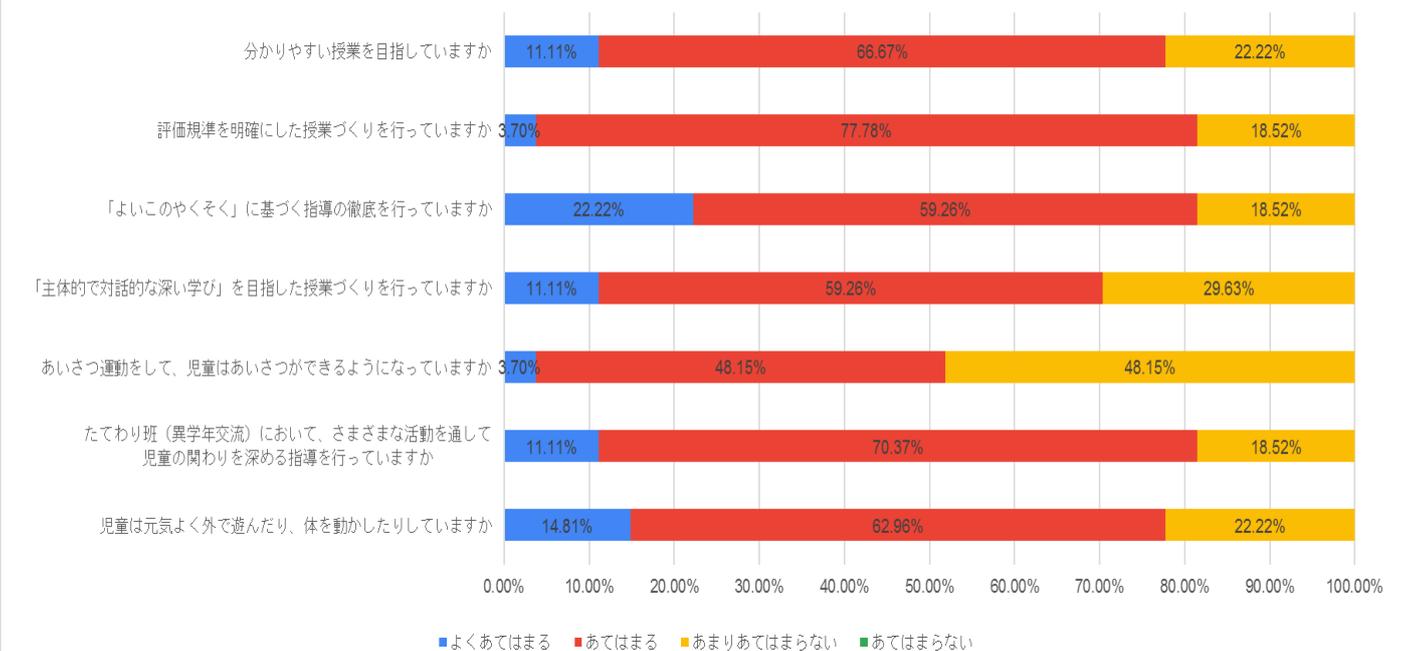
教員数 29人

重点目標の達成状況及び取組状況

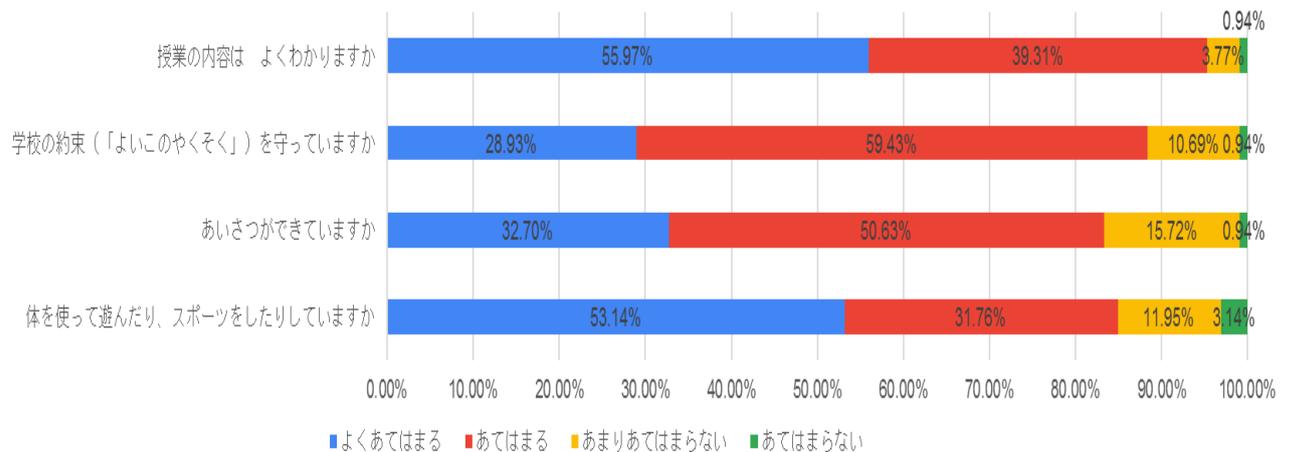
重点目標（保護者）



重点目標（教員）



重点目標（児童）



重点目標 1

保護者アンケートの「学校は子どもの関心・意欲を引き出すような授業をしていますか」という項目の肯定的な評価は、令和4年度は90.8%であったが、令和5年度は80.3%になった。また、同じ項目における教員の肯定的な評価は、令和5年度は77.8%であった。このことから、教員の授業における工夫や指導はみられるが、保護者・教員共に課題を感じている。児童は、「授業の内容はよくわかりますか」という項目において95.3%と高くなっている。より高次の授業内容を求められているため、一層の授業改善をしていく。

重点目標 2

保護者及び教員アンケートの「お子様（児童）は、自分の考えを書いたり、発表したりと表現していますか」という項目の肯定的な評価は、保護者は77.1%である。教員が70.4%であり共に低くなっている。教科担任制が始まり、担任する学級だけでなく、学年全体の指導を通して考えを表現する手段や、発表する活動の機会は増やしている段階にある。そのため、評価が厳しくなっていると考えられる。学校公開で児童の発表の場を取り入れたり、家庭において保護者がタブレット内の児童の成果物を見る機会が増えたりするように、一層働きかけていく。

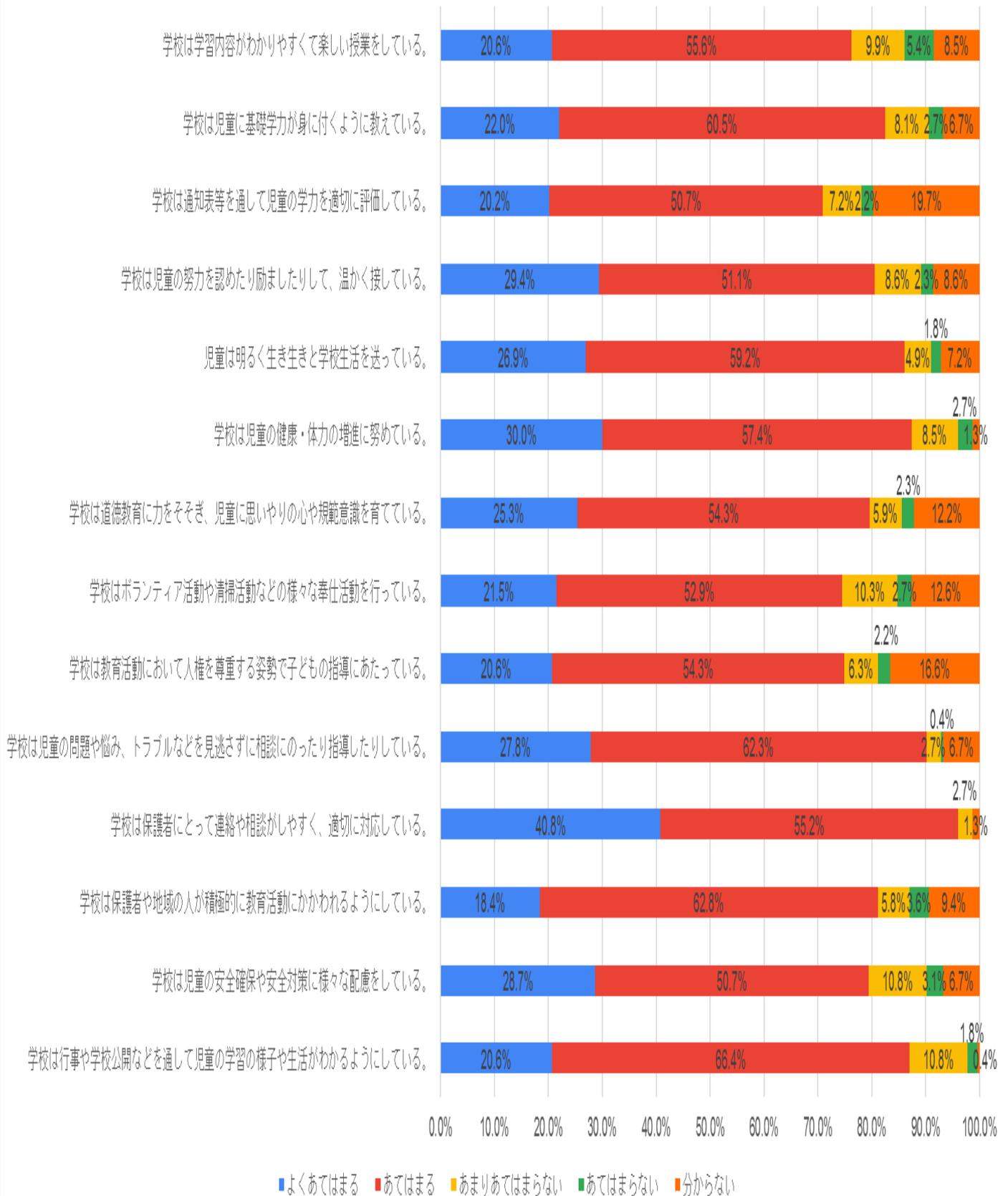
教員アンケートの「学校は『よいこのやくそく』に基づく指導の徹底を行っていますか」という項目の肯定的な評価は、令和4年度は92.9%であったのに対して、令和5年度は81.5%と減少している。年度当初に『よいこのやくそく』を全教員が再確認し、一貫した指導を行っているが肯定的な評価にはつながらなかった。保護者アンケートにおいても同様の傾向が見られることから、家庭や児童の声を聞き、『よいこのやくそく』の共通理解を図ることが求められている。

重点目標 3

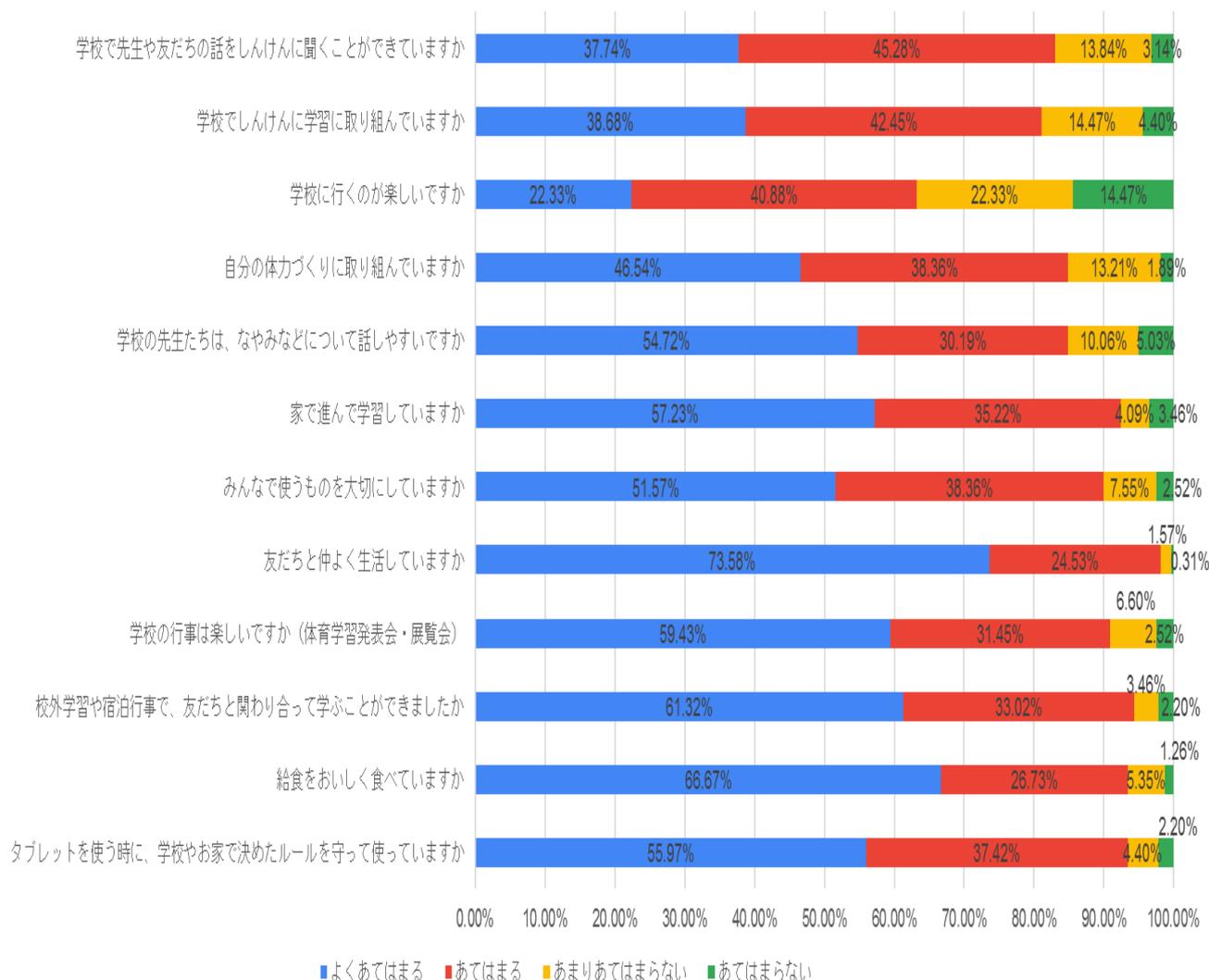
保護者及び児童アンケートの、児童のあいさつに関する項目の肯定的な評価は、令和4年度は保護者83%、児童82.4%であったが、令和5年度は保護者83.9%、児童83.3%と評価が上がっている。前年度に引き続き行った、代表委員会を中心とした「あいさつ運動」や、生活指導部を中心として行った「あいさつ週間」等の取り組みの成果が表れたのではないかと考える。今後も、児童が、主体的にあいさつができるよう、あいさつへの指導を行っていく。

保護者及び教員アンケートの「学校は、異学年交流を通して児童の関わりを深める指導を行っていますか」という項目の肯定的な評価は、保護者91.2%、教員81.5%と高くなっている。今年度は異学年交流と展覧会での共同作品製作の活動があり、異学年交流の良さを実感することができたのではないかと考える。児童にとって大切な交流であるので、可能な限り継続していきたい。

全体（保護者）



全体（児童）



2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

今年度の保護者アンケートの全体評価においては、肯定的評価が8割を超えたものの中から、前年度と比較して数値が減少したものが4項目あった。「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている」(R4: 91%→R5: 82.5%)、「学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している」(R4: 93%→R5: 80.5%)、「児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」(R4: 93%→R5: 86.1%)、「学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活がわかるようにしている」(R4: 95%→R5: 87%)。また前年度と比較し数値が上がったものが3項目あった。「学校は児童の問題や悩み、トラブルなどを見逃さずに相談ののったり指導したりしている」(R4: 81%→R5: 90.1%)、「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切に対応している」(R4: 93%→R5: 96%)、「学校は保護者や地域の人が積極的に教育活動にかかわれるようにしている」(R4: 70.5%→R5: 81.2%)。よって、肯定的評価が8割を超えたものは、全体数14項目中8項目であった。本年は通常の学校生活に移行した中で、児童の安全・健康面にも配慮しながら、体育学習発表会や展覧会などの学校行事、学校公開等を実施し、児童の成長の様子を伝えることができた。また、日常生活における児童の小さな変化を見逃さないことを念頭に置き、学校全体で指導にあたることができた。次年度は、規律・規範意識・人権尊重を大切にした学校生活、工夫をこらした学校行事の実施を通し、児童の安全な成長に寄与する教育活動を実施していきたい。

3 今後の改善方策

昨年度は各クラスのクラスルームを活用し、記名の学校評価アンケートを実施していた。今年度は、保護者連絡アプリ「テトル」が導入されたことを受けて、テトルにて無記名でのアンケートに変更した。匿名性が昨年度よりも高まったことで、より正直な保護者の意見が聞けるようになったと言える。全体の傾向を見ても、今までは担任の目を気にして慮った回答をしていた保護者が、より正直に回答をしたことで、全体的に肯定的評価の割合が減少している。

このような状況においても①体力向上、②トラブル対応、③相談のしやすさ、④保護者の教育活動への参加のしやすさの4項目に肯定的評価の割合が増加し、一定の評価を得られていると言える。

一方、①基礎学力について、②教員の児童への接し方について、③児童のいきいきとした生活について、④児童の学習の様子や生活の開示については課題が残る結果となった。来年度に向けて、組織的に対応していきたい。

また、挨拶についての項目をそれぞれ見ていくと、保護者と児童については肯定的評価が80%を超えているが教員は50%にとどまっている。この認識のギャップを理解した上で挨拶についての取り組みを進めていかないといけない。学校という場での、正しい挨拶の仕方を指導し、励まし、継続して取り組んでいく必要がある。

「学校に行くのが楽しい」と感じている児童の肯定的児童の割合が63%と他の項目と比べて低くなっている。コロナが5類に移行し、普通の学校生活が戻りつつある。子供達がいきいきと楽しく学校生活を送れるよう、教職員一丸となって、校長の学校経営方針の元、充実した教育活動を展開していきたい。